

三峰川右岸の農業を支えた水路橋

1958(昭和33)年に完成した高遠ダムから取水した水は、かんがい水路を通り、三峰川両岸一帯へ運ばれ、約2,500haの農地を潤している。虹橋は、この水を三峰川右岸側へ運ぶための水路橋。用水は、左岸の伊那市高遠町小原から三峰川を水路橋で渡った後、右岸1号、2号幹線に分かれる。両岸が絶壁となっている場所を、アーチ型で渡り、建設当初から「虹橋」と呼ばれる。



住民意見により茶色に塗装されたアーチ型の橋  
ランガー桁と呼ばれる、桁本体を細めのアーチで補強する形式の橋

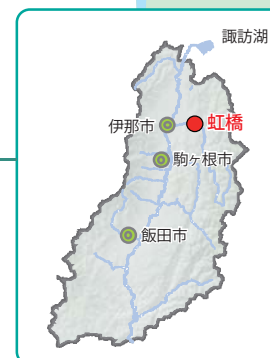


長さ98m、高さ40mにおよぶ橋の上は歩道となっている

ランガー桁と呼ばれる、桁本体を細めのアーチで補強する形式の橋

information

- アクセス  
伊那ICから15km  
車→30分
- 所在地  
伊那市高遠町～美篤



完成から半世紀近くが経過し、損傷が目立つようになったため、県営かんがい排水事業として2004(平成6)年に改修・補強工事が行われた。強度を高めたほか、地域住民による「色彩検討会議」で塗装色が決められた。管理道は、地域住民の歩道としても利用することから、安心して歩けるよう手すりの高さを120cmにした。

美和発電所で放流した水と藤沢川から取水した水を貯め、両岸の灌漑用水と下流の春近発電所の発電に、必要な量の用水を供給している。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)